

【2021年3月期第2四半期の実績について】																																																																																	
Q1	第2四半期の業績について、事業環境なども踏まえてセグメント別に教えてください。																																																																																
A1	<p>連結営業活動利益は前年同期の70%弱、当期利益（親会社帰属）は75%程度と、前年同期比減益となりました。</p> <p>減益幅が大きい主な事業は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイル事業は、前期は消費増税前・料金分離プラン導入前の駆け込み需要があった一方、今期は緊急事態宣言発令や外出自粛の影響により、来店者数の減少や営業時間の短縮があったことに加え、料金引き下げ期待による買控えや新機種発売の下期へのずれ込みなどがありました。また通信事業における一時的コスト増があり、大幅減益となりました。 ・畜産事業では、新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド需要蒸発や外食需要の低迷により国内在庫が積み上がり、加えて中国による豪州産牛肉の輸入停止が相場を押し下げるなど、価格下落の影響を受けました。また畜産事業・食品事業では巣ごもり需要と言われる内食向けによる増加はあったものの外食向けの販売が大幅に減少し、苦戦しました。 ・工作機械・産業機械事業においては、新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化の影響を受けて設備投資需要が減退していることや、海外技術者の渡航規制により輸入機械の引渡しスケジュールが遅延しており、減益となりました。 ・油井管事業は、原油価格の低迷やエネルギー需要の落ち込みより北米の原油・ガス生産量が減少し、油井管需要が低迷しています。 <p>(ご参考) セグメント別 営業活動に係る利益</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(単位：億円)</th> <th>20/3月期 2Q実績</th> <th>21/3月期 2Q実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ICTソリューション</td> <td>52</td> <td>52</td> <td>▲0</td> </tr> <tr> <td>モバイル</td> <td>37</td> <td>20</td> <td>▲16</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>電子・デバイス</td> <td>93</td> <td>75</td> <td>▲18</td> </tr> <tr> <td>食品</td> <td>3</td> <td>▲2</td> <td>▲6</td> </tr> <tr> <td>畜産</td> <td>8</td> <td>▲7</td> <td>▲15</td> </tr> <tr> <td>食糧</td> <td>6</td> <td>13</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>▲1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>食料</td> <td>17</td> <td>3</td> <td>▲14</td> </tr> <tr> <td>工作機械・産業機械</td> <td>4</td> <td>▲1</td> <td>▲5</td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>8</td> <td>▲2</td> <td>▲11</td> </tr> <tr> <td>エネルギー・化学品 他</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼・素材・プラント</td> <td>18</td> <td>5</td> <td>▲14</td> </tr> <tr> <td>航空宇宙</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>車両・車載部品</td> <td>2</td> <td>▲1</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>車両・航空</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>147</td> <td>100</td> <td>▲47</td> </tr> </tbody> </table>	(単位：億円)	20/3月期 2Q実績	21/3月期 2Q実績	増減	ICTソリューション	52	52	▲0	モバイル	37	20	▲16	その他	5	3	▲2	電子・デバイス	93	75	▲18	食品	3	▲2	▲6	畜産	8	▲7	▲15	食糧	6	13	6	その他	▲1	0	1	食料	17	3	▲14	工作機械・産業機械	4	▲1	▲5	海外	8	▲2	▲11	エネルギー・化学品 他	6	8	2	鉄鋼・素材・プラント	18	5	▲14	航空宇宙	9	13	4	車両・車載部品	2	▲1	▲3	その他	3	2	▲1	車両・航空	13	13	0	その他	6	4	▲2	合計	147	100	▲47
(単位：億円)	20/3月期 2Q実績	21/3月期 2Q実績	増減																																																																														
ICTソリューション	52	52	▲0																																																																														
モバイル	37	20	▲16																																																																														
その他	5	3	▲2																																																																														
電子・デバイス	93	75	▲18																																																																														
食品	3	▲2	▲6																																																																														
畜産	8	▲7	▲15																																																																														
食糧	6	13	6																																																																														
その他	▲1	0	1																																																																														
食料	17	3	▲14																																																																														
工作機械・産業機械	4	▲1	▲5																																																																														
海外	8	▲2	▲11																																																																														
エネルギー・化学品 他	6	8	2																																																																														
鉄鋼・素材・プラント	18	5	▲14																																																																														
航空宇宙	9	13	4																																																																														
車両・車載部品	2	▲1	▲3																																																																														
その他	3	2	▲1																																																																														
車両・航空	13	13	0																																																																														
その他	6	4	▲2																																																																														
合計	147	100	▲47																																																																														

Q2	食料セグメントでは、営業活動利益が3億円と前年同期比▲14億円減少しましたが、当期利益は8億円と前年同期比横ばいとなっています。その理由を教えてください。
A2	営業活動利益よりも下の段階利益において、米ドル金利下落による金融収支の改善、前期に売却した事業の税効果を認識したことによる法人税費用の減少等が寄与したものです。
Q3	鉄鋼・素材・プラントセグメントでは、営業活動利益が5億円と前年同期比▲14億円減少していますが、当期利益は9億円と前年同期比▲2億円程度の減少に留まっています。その理由を教えてください。
A3	油井管関連では前年同期比▲11億円の営業活動利益減益となりましたが、当該事業の主要子会社における当社グループ出資比率は約50%程度となっており、当期利益では前年同期比▲3億円程度の減益となることが主因です。
【2021年3月期見通しについて】	
Q4	2Qにおいて通期見通しを下方修正しましたが、修正のポイントを教えてください。(営業活動に係る利益ベース)
A4	<p>営業活動に係る利益については、期初見通しの270億円を240億円に、▲30億円修正いたしました。その内訳は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイル事業においては、下半期は新機種の発売などに期待がかかりますが、上半期の落込み分を取り戻すことは難しいと予想しています。そのため、電子・デバイスセグメントにおいて、期初見通し186億円より▲15億円修正しています。 ・畜産事業は、国内在庫を安値で販売する状況が継続しています。また、外食産業の回復が鈍く引き続き厳しい状況が続いていることから、外食向け販売の伸長が見込めない畜産事業、食品事業の苦戦が想定されます。そのため、食料セグメントにおいても、期初見通し36億円より▲15億円の修正としています。 ・工作機械・産業機械事業や油井管事業の落込みは期初より想定していたとおりですが、一方でエネルギー、化学品、航空宇宙事業など順調な事業もあり、鉄鋼・素材・プラントセグメントおよび車両・航空セグメントでは見通しを据置きとしています。
Q5	ICTソリューション事業は、コロナ禍にあっても順調ですが、事業環境を含め今後をどのように見えていますか。
A5	働き方改革や新型コロナウイルス対策など、昨今のテレワークへのシフトを受け、中期的な企業のIT投資による潜在需要は高い状況が続いています。今期も、ほぼ前期並みを見込んでおりますが、緊急事態宣言中における下期分の新規商談遅れもあり、今後の需要動向を注視しつつ取り組んでいきます。

Q6	モバイル事業は、5G対応や料金値下げの動きなど様々な環境変化があります。今後の事業環境や業績への影響など、どのように見えていますか。
A6	<ul style="list-style-type: none"> ・10月に入って新機種の販売が開始され出足は好調です。11月以降は低価格の新機種も発売される予定で一層の販売増が期待されます。 ・比較的大容量プランの価格引き下げについては、各キャリアからの発表が続いており、これまでの値下げ期待の買い控えは徐々に解消される見込みです。 ・5G対応の新機種が増えていることから、今後キャリアでの5G基地局整備が進むことが期待されています。企業によるローカル5G需要が徐々に増えることも想定されることから、これらのニーズに対応できる体制の整備を進めています。 ・法人向けについても、新型コロナによるテレワーク関連の需要がモバイル端末のみならず各種ソリューションにも及び、DXの推進に取り組む企業が増えていることから、今後の伸びが大いに期待されます。 <p>新型コロナの感染再拡大による経済活動の抑制リスクも残りますが、これらの要因により販売を徐々に拡大していきたいと考えています。</p>
Q7	油井管事業は、原油価格の下落などにより、北米ではリグカウントの減少傾向が続いていますが、今後についてどのように見えていますか。
A7	今期においては、当社の個別ビジネスの中で最も厳しい事業の一つと考えておりますが、想定通り2Qまでは厳しい環境が継続しています。経費圧縮と政府補助金等で対応しておりますが、欧米のコロナ第二波によるエネルギー需要の減退継続もあり、マイナスの影響を最小限に留める施策を遂行していきます。
	【投資について】
Q8	投資の進捗状況について教えてください。
A8	<p>コロナ禍でも複数の案件が進行しており、パイプラインの案件数は増加しています。一部DD等の遅れはあるものの、ほぼ期初の想定通りで進捗する予定です。</p> <p>ネットDERは一時的に0.32倍まで下がりましたが、案件実行に伴い、従来水準に収れん致します。</p>
	【株主還元について】
Q9	年間配当は60円を据置きとすることで、21/3期の配当性向の見通しは38.5%となり、総還元性向の目標レンジである25~30%を上回りますが、総還元性向の目標を上方修正したということでしょうか。
A9	<p>当期については、年間配当金額を1株当たり60円と期初予想を維持することで、結果的に、中期ビジョン「future 135」の目標レンジから上振れ、配当性向は30%台後半となりますが、これは総還元性向の目標を上方修正したという訳ではありません。新型コロナウイルスの感染拡大という不測の事態による業績変動がその要因であること、また、当社の財務構造も自己資本比率・リスクアセット倍率等の各指標で安定的水準を維持しており、目標レンジを上振れても、株主の皆さまへの“継続的且つ安定的な配当を優先する”という経営判断によるものです。</p> <p>今期末で「future 135」の折返しとなる3年目が終わるタイミングとなりますので、投資の積上げ状況なども勘案し、株主還元方針の見直しなども検討します。</p>

【その他】	
Q10	総合商社では在宅勤務からオフィス回帰の動きがあるようですが、兼松ではどのような方針とされていますか。
A10	緊急事態宣言発令中については、全従業員および派遣スタッフを対象に「原則在宅勤務」とし、緊急事態宣言解除後については、オフピーク通勤および在宅勤務を推奨として、所属部門の業務に応じた対応をして参りましたが、在宅勤務の効率性や、新規ビジネス創出促進などの観点から、今後、ウィズコロナ・アフターコロナの新たな時代における働き方として、在宅勤務を含めた新たなルールづくりをする予定です。

以 上